東京医科歯科大学

〒113-8510
東京都文京区湯島1-5-45
統合教育機構入試課
TEL 03-5803-5084
http://www.tmd.ac.jp/

東京医科歯科大学は国立大学で唯一の医療系総合大学として、「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」ことを基本理念に、他の国立大学にはない「教養部」を軸に、世界レベルの質の高い教育を展開。世界に冠たる医療系総合大学を目指して着々と改革を進めています。

今年4月には、新たな概念の先制医療である統合先制医歯保健学の研究推進と、グローバル人材育成を目的に大学院の改組を実施しました。

また、リサーチユニバーシティとして数多くの世界最先端の研究を推進。「創生医学」の国際研究拠点の構築を目指して創生医学コンソーシアムを新設したのをはじめ、次代を担う研究者の育成にも力を入れています。

吉澤靖之学長

世界ランキングトップレベルの医療系総合大学として「知と癒しの匠」を創造し、人々の幸福に貢献する

医療人に求められる教養を習得する質の高い教育

東京医科歯科大学は、今年2月末に英国の世界大学評価機関クアクアレリ・シモンズ（QS）が発表した専攻分野別QS世界大学ランキングで、歯学分野において日本第1位、世界第5位に輝きました。また、医学分野でも世界で101～150位、日本第4位になるなど、その研究力・教育力は世界的に高い評価を得ています。そのベースとなるのが、医療系総合大学の特性を生かした、医学科・歯学科の学生が共通して学ぶべき科目を合同で行う医歯学融合教育[1]と、6年一貫型の教養教育です。国立大学で唯一設置している教養部では、「大学は、市民社会を構成する一員としての教養を身につける場である」という大学教育の原点に立ち返り、医療人に求められる教養と人間としての力を身につける教育を行っています。学部学科の別なく全学生が共に学ぶことにより多様な考え方に触れることができるのです。一例を挙げれば、入学直後に「教養総合講座」が全学生を対象に開講され、全学科横断で構成される少人数グループで、資料の収集方法や議論の仕方、情報リテラシーなどを学びます。さらにサイエンスPBL（課題解決型授業）やアクティブラーニングを積極的に導入しています。

吉澤靖之学長は、「本学が学生に求める医療人としての基本は、自己アイデンティティを確固たるものにして多様性を受け入れるコミュニケーション力を身につけることです。本学は国立大学で唯一、教養部を残していますが、精神的修養も含めて、この教養時代の学びが重要になってきます。教養、感性、コミュニケーション力を磨き、〝知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する〟というミッションを果たすようになってほしい」と話します。

新たな先制医療を目指して2018年度に大学院を改組

東京医科歯科大学は今年4月、大学院の改組を実施しました。新たな概念の先制医療である統合先制医歯保健学[2]の研究を推進していくとともに、国内外で活躍できるグローバル人材を育成することが目的です。

このため、医歯学総合研究科、保健衛生学研究科の既設の専攻を統廃合して、新たに医歯理工保健学専攻（博士課程）、医歯学専攻（博士課程）、生命理工医療科学専攻（博士課程）を設置。医歯学専攻に先制医歯理工学コース（臨床統計・バイオインフォマティクスプログラム）、生命理工医療科学専攻に先制医歯理工学コース（先進医療デバイスIoT学プログラム／疾患生命創薬科学プログラム）、医歯理工保健学専攻に先制医療学コースおよび完全英語履修のグローバルリーダー養成コースを新設しました。

「バイオインフォマティクスなど各種の医療系情報を統合的に取り扱う研究分野を設置し、医歯保健学におけるIoT、AI、ロボティクスを取り扱える人材の育成と研究を推進します」と吉澤学長は話します。

一方、入試改革も積極的に進めており、今年度入試より全学科で国際バカロレア入試を、医学部に加え歯学部でも推薦入試を導入しました。これらの入試では小論文で問題発見および解決に必要な批判的・創造的・協同的思考力を問う問題を出題しました。東京医科歯科大学ではさらなる入試改革として、東京外国語大学との文理融合問題の共同作成、面接官の相互派遣などを実施し、連携を強めていく方針です。

また、今年度は統合大学改革推進機構を設置。統合教育機構、統合研究機構、統合診療機構、統合国際機構、統合情報機構と合わせ6つの統合機構で部局の枠を超え全学を俯瞰するシステムを構築しました。

地球規模の医療人材養成へ多彩なプログラムを実施

東京医科歯科大学では、「TMDU型グローバルヘルス推進人材育成構想・『地球規模での健康レベル向上』への挑戦」が文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」タイプA（トップ型）に採択。日本が保健医療分野で培った経験や実績を活かして、世界の健康レベルの向上に尽くす人材を育成しようというもので、学部・大学院でさまざまなプロジェクトを推進しています。

2015年に、チリ大学およびタイのチュラロンコーン大学との間でのジョイント・ディグリープログラムを締結しましたが、ガーナ大学やマヒドン大学（タイ）とのジョインント・ディグリープログラム開設に向けて具体的な検討を進めています。また、2017年11月、マヒドン大学シリラート病院内に東京医科歯科大学のオフィスが開設されました。現在ガーナ、チリ、タイの3つの海外教育研究拠点では、東京医科歯科大学から派遣された常駐研究者が研究に取り組んでいるのをはじめ、学生が現地で研究実習をしています。このほか、ハーバード大学臨床実習や、オーストラリア国立大学との交換留学プロジェクトなど多彩な国際交流を実施しています。

学生のための語学教育も充実しており、リーダー養成のための英語選抜プログラム「Health Sciences Leadership Program（HSLP）」[3]などが用意されています。

また、今年5月には附属病院に国際医療部を新設しました。外国人患者の受け入れ体制を整備するほか、2020年の東京オリンピック・パラリンピックへの貢献も視野に入れています。

最先端の研究を推進するリサーチユニバーシティ

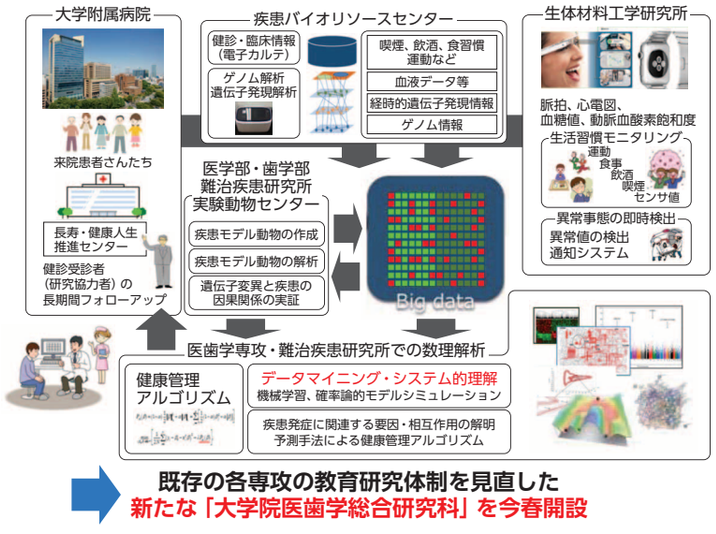
東京医科歯科大学は、リサーチユニバーシティとして数多くの世界最先端の研究を行っています。一例を挙げれば、昨年9月、「創生医学」の国際研究拠点の構築を目指して創生医学コンソーシアムを新設しました。再生医療研究の豊富な経験・実績を基に、「再生から創生へ」をキーコンセプトとして、従来の再生医療から歩を進めた「創生医学」という新たなパラダイムの創出を図ります。

「次世代研究者の育成にも力を入れています。研究に専念するシステムである次世代研究者育成ユニットを今年度から立ち上げ、20名程度を競争的環境で育てます」と吉澤学長。

また、2018年7月には総合診療科を新設しました。従来の老年病内科を発展させたもので、高齢者だけでなく、地域医療実習なども実施し、院内の各科と連携して総合的に患者の診療に当たります。

吉澤学長は、受験生に「私のモットーである〝積極思考で全力を尽くす〟〝己を知れば邪心なし〟[4]の2つを心に置き常にチャレンジしてほしい。失敗を恐れてはいけません。社会の根本は人間です。医療は人間を幸せにするものです。幸せな社会の土台をつくる医療の世界を目指してほしい」とエールを送っています。

統合先制医歯保健学の概要



既存の各専攻の教育研究体制を見直した
新たな「大学院医歯学総合研究科」を今春開設

(1) 医歯学融合教育

2～4年次に「英語、臨床統計、倫理」を学ぶほか「頭頸部ブロック」学習では両学科に共通の教育や、患者さん参加の学習、症例基盤型学習などを行う。「老年医学ブロック」学習では高齢者に特徴的な病態について学び、最終学年では2学部4学科の学生がチーム医療を学ぶための「包括医療学習」が予定されている。

(2) 統合先制医歯保健学

先制医療は、個人レベルで病気の発症前にそれを予測し予防的な介入を行うことにより病気の発症をくいとめるための医療行為。統合先制医歯保健学とは、個々人のゲノム・エピゲノム情報とリアルタイムカルテ情報の統合的データベースや生活習慣、環境因子情報を一括的に収集・管理して解析し、先制医療を提供するための学問体系を指す。

(3) HSLP

医学の発展と世界規模での健康レベル向上のために世界を舞台に活躍することを志す学生を対象とした、完全英語履修の複数年にわたるリーダー養成選抜プログラム。生命科学研究・国際保健／医療政策・医療産業分野において世界を牽引するリーダーの育成を目的とする、学士課程グローバル人材育成の取り組み。

(4) 己を知れば邪心なし

自分自身の存在を過大評価することにより、自分が現在置かれている立場は自分の能力にふさわしくないなどの不満を感じることがある。それとは反対に、自分が立場にふさわしい能力がなく、自己防衛や正当化を図るために、他人を責めたり陥れたりすることもある。他人が評価すべきなのに自己評価を優先するとこうした邪心を抱くことになるが、それを避けるためには自己アイデンティティ、すなわち、何のために自分が存在するのかをはじめ、自分の置かれている状態を正しく理解すべきである、の意。